

人権教育啓発情報誌

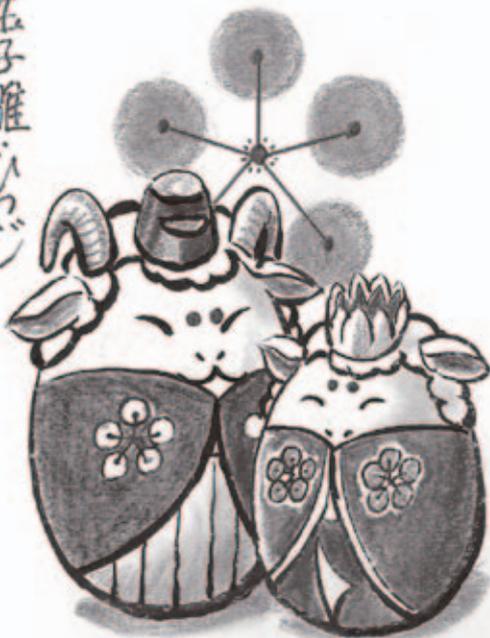
栃 木 市
大 平 隣 保 館

No. **127** 号

こ だ ま



玉子雛ひつじ



思いやり
みんなが
えがおが
あふれる



人権作文

「一言の言葉」

大平中央小学校 六年

まつなが
松永

さき
咲



「ありがとう。」「この言葉を言われて、嫌な気持ちになる人はいないと思います。このように、一言で相手のことをとてもらうれしく、幸せな気持ちにさせることができる言葉を、「花束の言葉」と、私の先生は言っていました。名前の通り、花束をもらった時のような、うれしい言葉である例えです。また、その反対

に「バカ」「死ぬ」などの一言で、相手のことを辛く、悲しい気持ちにしてしまう言葉のことを、「ナイフの言葉」とも、先生は言っていました。こちら名前の通り、心にナイフがささってしまふような言葉の例えです。この話を聞いた時に私は、言葉というものは、一言を話す一瞬で、相手のことを笑顔にもできるし、悲しませることもできるのだなあと思ひ、一言の重さを改めて感じる事ができました。しかし、表情や態度、口調などにより、言葉を間違つて受けとってしまう場合もあると思ひます。なぜなら、私自身がこのような経験をした事があったからです。

私がようち園に通つていた時、友達に、「いっしょに折り紙折つて、遊ばない？」と聞かれました。私は、「いいよ。」と、友達と折り紙を折るといふ意味

で言ったのに、相手の子は、私が折り紙を折つて遊びたくないと言つてるとか間違ひしてしまひ、その子を怒らせてしまつたといふ事があるからです。その時に私は、なんとかその子の誤解を解きましたが、このような事がこれから先にもあるのではないかと思ひました。今思つて、私の表情、態度、口調などにより、花束の言葉だつたはずのものがナイフの言葉の言葉となり、その子のことを傷つけてしまつたのだなあと思ひます。

また、最近では、「いじめ」が問題化されています。そして、いじめを受けて自殺してしまつたといふニュースも、たびたびみえます。私は、具体的に、いじめとはどういうものなのだろう、人権って何なのだろうと思ひ、「いじめ」と「人権」といふ、二つの言葉を辞書で調べてみました。まず、人権とは、人間が生まれながらにもつてゐる権利、自由平等の権利だそうです。いじめとは、弱

い立場の人に、言葉、暴力、無視、仲間外れなどにより、精神的、身体的苦痛を加えることだそうです。いじめとは、人権をしん害することなのだなあと思います。辞書を引いてみて、いじめを受けている人は、そうとう辛いのだらうなあと思ったり、言葉による暴力は、一生治す事はできないという事に改めて気づきました。私は亡くなってしまった人達の間も、一生けんめい生きようと、感じる事ができました。ナイフの言葉より、ずっとすてきな、花束の言葉をたくさん使って、この尊い命を、ずっと大切にしていきたいと思っています。



「大きな声であいさつを」

大平西小学校 六年

石橋 陸



ぼくは、五年生の初めの頃まで、声がとても高く、大きな声を出すことや、きれいな声で歌うことが得意でした。ぼくが大きな声であいさつをすると、みんなや先生方が笑顔になり、ぼく自身の心もすっきりしました。

しかし、五年生の二学期を過ぎた頃から、ぼくの声に変化が起きました。変声期になったのです。以前のようないい声、だんだんと

出なくなりました。

その頃、周りの友達で変声期になっている人は、ほとんどいませんでした。そのため、声が低くなってしまったぼくに対して、みんなが、

「どうしたの。」

と心配して声をかけてくれました。ぼくも、「変声期」という言葉や意味を知らなかったため、「この間の風邪が治っていなくて、声がかれているだけかもしれない。」と思っていました。だから自分の声に異変を感じてからも、しばらくの間はがんばって大きな声を出そうとしました。しかし、無理やり高い声を出すと、かえって裏返ったり、変な声が出たりしてしまいます。そんな声であいさつをしても、みんなが笑顔になるはずがありません。それどころか、ぼくの声を聞いて、次第にみんなが笑うようになりました。とても悲しくなりました。大きな声であいさ

つすること自体が、恥ずかしく感じるようにもなっていました。六年生になる頃には、声はますます低くなっていきました。高い声を無理やり出すことも、できるだけしないようにしました。

一方、クラスの中にも、ぼくと同じように声が低くなった友達も、少しずつ増えていきました。「自分だけがおかしいわけではないのかもしれない。」と感じたぼくは、母に、声が低くなったことを相談してみました。すると、「変声期は、成長期の男の子が経験するもの。」ということを教えてもらいました。今までなやんでいた気持ちがあつと軽くなり、「また大きな声でみんなにあいさつをしようかな。」と前向きに考えられるようになりました。

すると、今年、ぼくの学校で「あいさつ運動」というものが始まりました。当番のクラスが、朝、しょう降口に立って元氣にあいさつ

を呼びかけるといふ運動です。先日、ぼくのクラスにも当番が回ってきて、たくさんの人にあいさつをしました。ぼくから届けるあいさつは低い声でしたが、下級生や先生方が、笑顔であいさつを返してくれました。

この体験から、「大きな声であいさつをすることは、やっぱり気持ちがいいな。」と思いました。声の高さは以前のぼくのとちがいますが、自分の声に自身をもって、みんなが笑顔になるようなあいさつを、今後も心がけていきたいと思えます。



権啓発情報誌「こだま」が全国隣保館だよりコンテストで「特別賞」をいただきました。今後もより多くの方に親しんでいただけるよう、努力してまいります。

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

「人権の世紀」といわれる21世紀に入って既に10年以上が経過しました。啓発活動重点目標を標記のとおり定め、21世紀が「人権の世紀」であることを改めて思い起こし、一人一人が人権を尊重することの重要性を正しく認識し、これを前提とした他人の人権にも十分配慮した行動をとれることができるよう、相手の気持ちを考えることや思いやることの大切さを一人一人の心に訴えることにより、全ての人々が、個人として尊重され、相互に共存し得る平和で豊かな社会の実現に向けた啓発活動を展開します。

『隣保館主催行事』

○『栃木市人権講演会』を
開催しました。



講演中の塩尻さん

11月27日(木)大平文化会館にて、市内の集会所や隣保館の利用者等を対象に、人権講演会を開催しました。講師には、社会的養護の当事者自助グループ「だいじ家」代表の塩尻真由美さんを迎え、児童養護施設での体験談

や社会的養護に関する現状についての内容でした。講師自らのエピソードを交えた講話に、約250名の受講者たちの多くが感銘された様子でした。

○『シルバー生き生き塾』について

地域交流促進事業の一環として6月から毎月開催してきました『シルバー生き生き塾』が、1月27日に修了しました。

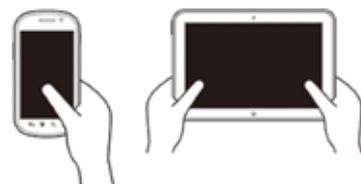
この講座では、受講生相互の交流や福祉・文化等の向上を目的に、シルバー世代がイキイキと過ごせるよう、野外研修や「笑うこと」など毎回違うテーマに取り組みました。

受講生の皆さんからは、「非常にわかりやすく良かった。」など、多くの意見を伺うことができました。



○『スマートフォン教室』について

1月29日と2月5日(全2回)の短期講座として、初心者を対象としたスマートフォン教室を開催しました。



2人で1台のタブレットを使用し、操作方法などを初心者にもわかりやすく、NITドコモの講師小林さんにご指導いただきました。皆さんは悪戦苦闘しながらもそれぞれに習得されたようでした。



恐るおそるタッチ...

書初め席書大会を開催しました

新年を迎えて間もない1月5日(月)大平隣保館において、幼稚園年長さんから小学6年生までの23名が、石原先生たちの指導の下、真剣かつ楽しく書初めをしました。



テレビのインタビューに緊張



みんな上手に書けました

◎『子育て支援講座』を開催しました。

12月17日(水)10時から大平隣保館において、「きづきの学校」校長で「魔法の質問」認定講師の柏木聖子氏を迎え、子育て支援研修会を開催しました。

小さなお子さんを連れただお母さん達が、柏木先生の講話に真剣に耳を傾けていました。



時々笑いもこぼれ、和やかな様子の研修会

「人権啓発活動」

人権週間に合わせて、
いろいろな啓発活動な
どが行われましたので
一部を紹介します。



◎中学生による『盲導犬体験学習』

12月10日(水)に藤岡第一中学校、
2月18(水)に吹上中学校の体育館を
会場に、公益財団法人東日本盲導犬
協会による盲導犬体験学習が、両校
合わせて約600名の中学生を対象に行
われました。最初に盲導犬の訓練士
の方から盲導犬利用者と盲導犬につ
いてのお話を伺い、その後アイマス
クを付け、盲導犬の誘導に従いなが
ら、障がい物を避けて決まったコー
スを歩行するなどの体験学習をしま
した。この体験を通して、目が見え
ないことがどれほど不安なのかを身
を持って感じ、視覚障がい者のパー
トナーとしての盲導犬の重要性を実
感することができたようです。

◎人権擁護委員による『お話し会』

人権擁護委員の方々による「お話し会」が、12月15日(月)に大平中央保育園、17日(水)に大平みなみ幼稚園、18日(木)に藤岡三鴨保育園にて行われました。人権に関する人形劇や啓発アニメを観た後に園児の感想などを人権擁護委員の方と話し合いました。



頼りになる盲導犬
(藤岡第一中学校にて)



大平みなみ幼稚園にて



大平中央保育園でのひとコマ



◎堀尾正明さんの講演会
『人権を考える市民の集い2014』

人権尊重のまちづくりを推進するため、人権週間に合わせて「人権を考える市民の集い2014」を開催しました。「はぐくもう 思いやり」の心は『近所の底力』をテーマにしたフリーキャスター 堀尾正明さんの講演会には約700名の市民の方が参加しました。会場ホワイエでは、市内小学生の人権書道や人権ポスター原画のコンテストに出品された作品等を展示したほか、オープニングでは栃木女子高等学校コーラス部による合唱が行われました。



講師の堀尾さん



展示された児童の作品展



すてきな歌声のコーラス部の合唱

『集会所教室の受講生を募集しています』

栃木市集会所（栃木3館・大平5館・藤岡2館・岩舟2館）では、平成27年度に開催する各種教室の受講生を募集しています。受講料は無料ですが、材料代等の費用が掛かる教室もあります。

集会所ごとに開催日時等が決まっていますので、興味のある方は、大平隣保館まで問い合わせてください。（☎43-6611）

- ・栃木集会所：民謡、子ども習字、書道、カラオケ、ちぎり絵教室他
- ・大平集会所：女性、料理、高齢者、ダンス、カラオケ、民謡教室他
- ・藤岡集会所：高齢者、子ども、ふれあい(成人男女)教室他
- ・岩舟集会所：卓球、健康、料理、美術教室他





【集会所事業】

栃木・大平・藤岡・岩舟の各集会所では高齢者から子ども向けまで、いろいろな教室を開催しています



藤岡富吉集会所で餅つき大会 (11/29)



岩舟下津原集会所で連たこ作り (11/22)



集会所では毎年一回、受講者を対象に野外研修を行っています。各集会所で20名以上の方が参加し相互の交流を深め、人権意識の高揚に役立っています。



岩舟の集会所は小江戸川越に

◇27年度もいろいろな講座を開講する予定です。ぜひご参加ください。



厚生センターからのお知らせ

【冬休み交流事業】

厚生センターでは、毎年、夏休みと冬休みに素敵なイベントを行っています。

今回の冬休みは、おもしろ科学じっけんにもちつき体験、ビンゴと盛り沢山！

お昼は、つきたてのおもちと豚汁にみんな大満足。

うれしいお土産付です！

《おもしろ科学じっけん》



今年の夏休みと冬休みも、楽しくておいしいイベントを用意しますので、皆さんぜひ来てくださいね！！

《もちつき体験》



《みんなで楽しいお昼：もち&豚汁》





【厚生センター自主講座】

厚生センターでは、子どもの情操教育や脳の発達にも良いと言われる読み聞かせの学習会を3回連続講座として開催しました。また、読み聞かせ発表会も行いました。

《読み聞かせ学習会》

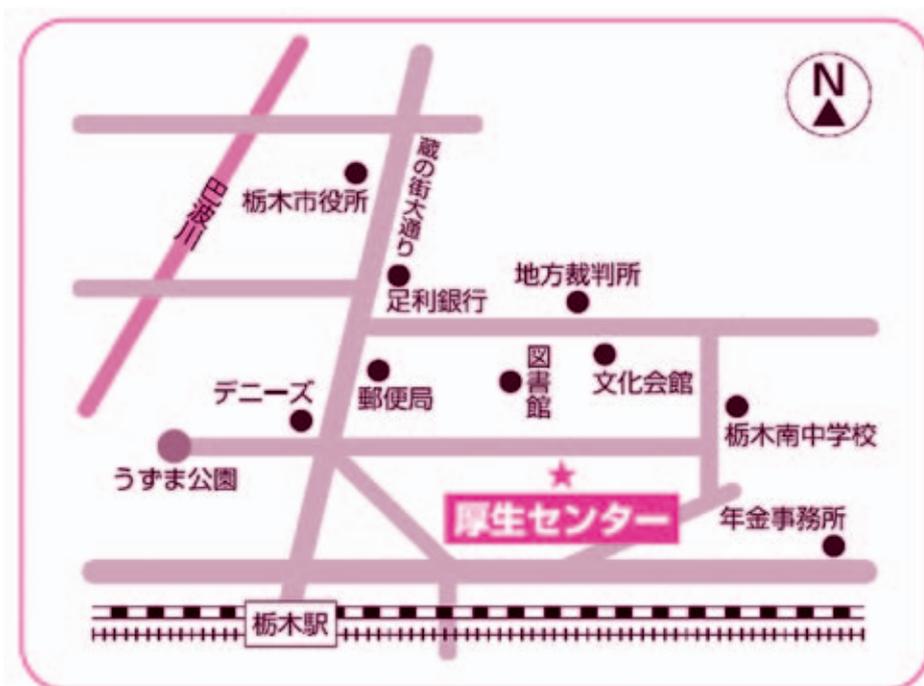


《読み聞かせ発表会》



※これからも、様々な講座を開催します！
市の広報やホームページでお知らせします。
よろしくね！

■位置図 厚生センター 栃木市旭町 9-7



相談事業のご案内

大平隣保館では、市民を対象に日常生活における様々な困りごとに関する相談を常時受付けております。

また、法律や年金に関する相談、言葉が通じないなどで困っている外国人の方の相談も次のとおり日時を指定して相談窓口を開設しております。

どこに相談したらよいのか分からない場合でも、お気軽にご相談ください。隣保館で対応するほか、適切な機関をご紹介します。

法律相談

2か月に1回、日常生活における法律全般に関する困りごと等について、弁護士の方が相談に応じます。

今後の相談日は次のとおりです。相談は予約制ですので、希望される方は事前に大平隣保館へご連絡ください。

◎開催日

5月21日(木)
7月16日(木)

◎相談時間

午前10時～正午まで

年金相談

年金の専門家による相談窓口です。年金についての相談を希望される方は、次の相談日に大平隣保館へご来館ください。

◎開催日

4月7日(火)
5月12日(火)
6月9日(火)
7月7日(火)

◎相談時間

午前10時～正午まで

外国人相談

日常生活の中で、言葉が通じないなど、困っている外国籍の方の相談窓口です。日本語講座と併設しており、通訳を通して相談を伺いますので、次の相談日に大平隣保館へご来館ください。

◎開催日

4月18日(土)
5月16日(土)
6月20日(土)
7月18日(土)

◎相談時間

午後8時～10時まで

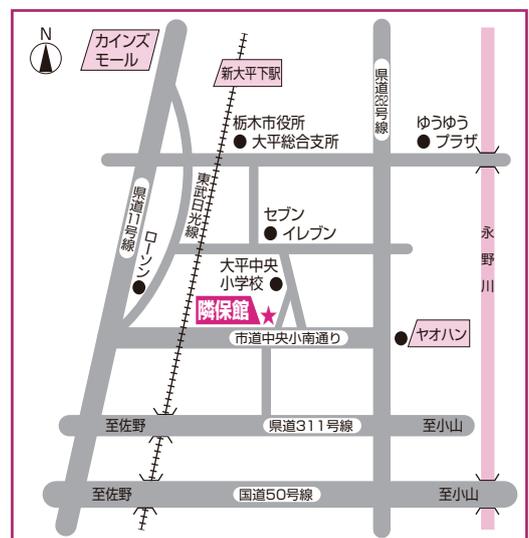
生活相談や
困りごとは
隣保館へ

電話でのご相談はフリーダイヤルで

よろしくなやみなし

0120-46-7830

(平日午前8:30から
午後5:00まで)



表紙絵 絵手紙教室 根本晴夫さん
標語 大平中央小四年 大塚梨乃さん